



公共マネジメント学科開設記念シンポジウムが開催されました。

准教授 菅 正史

下関市立大学では、2011年11月21日(月)、「地方分権時代の地域社会を展望する」をテーマとする公開シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、4月の公共マネジメント学科開設を記念して、下関市立大学学会との共催で開催したものです。

シンポジウムは、神野直彦先生(地方財政審議会会長・東京大学名誉教授)と金子勝先生(慶應義塾大学教授)の2名の先生をお招きし、講演会とパネルディスカッションを行いました。

神野先生には、「地方分権改革のアジェンダ」と題する講演をいただきました。



神野直彦先生

神野先生の講演の冒頭では、「公共」(Public)概念についての説明がありました。先生の専門の財政学は、英語ではPublic Financeと訳します。現在の日本では「公」という言葉が「官」(行政)と同じ意味に用いられることも多いですが、本来の「公共」の姿は、家族の関係にも似た共同体意識により基づくものです。

続いて、なぜ地方分権—共同体意識による親和的議論(「熟議」)を通して、社会を豊かにする仕組み—が必要とされているかの説明がありました。国家を超えたグローバル化が進み、国がお金を再配分することで大量生産・大量消費の生活を支えることは難しくなっています。そのため、量ではなく質を重視して、自分たちが真に必要なものを考えるために、知識や情報を惜しみなく共有する共同体が求められています。

神野先生の講演は、最後に、スウェーデンの教科書に掲載されている、家族のような思いやりの大切さを述べた「子ども」と題した詩の紹介で幕を閉じました。

引き続き、金子先生からは「地域分散型社会の戦略」と題する講演をいただきました。



金子勝先生

はじめに金子先生は、日本が多くの社会問題の解決を先延ばしにしてきた結果、若い人たちの未来が失われていることに憂慮の思いを述べられました。繰り返されるバブルと金融危機、東日本大震災に伴って生じた福島原子力発電所の事故などを通じて、現在の社会の仕組みが行き詰まりを迎えていることを指摘されました。特

に原発事故の問題については、金子先生が内閣府原子力委員会新大綱策定会議の議員を務められていることもあり、放射性物質の飛散量、SPEEDI(スピーディ)による予測結果、被曝リスクの情報が公開されていないことなど、多岐にわたる問題について具体的な言及がありました。

金子先生は講演の最後に、日本社会の抱える課題を解決する「地域分散型ネットワーク社会」というイメージを提示されました。再生可能エネルギーへの転換による「脱原発」の取り組みを契機に、個々には自立が難しい地域が互いに結びつく経済システムそのものが独立した地域を実現しようとするアイデアです。

両先生の講演を受けて、「関門から見る地域のマネジメント」をテーマにパネルディスカッションを行いました。前半は、中尾下関市長から下関市の現状と課題に関するご発表と、それに対する神野先生・金子先生のコメントをいただきました。後半は、新設された公共マネジメント学科に向けて、地域の知の拠点や、新たな学問分野の確立などの役割を果たしてほしいとの、期待の言葉をいただきました。



前半の講演会、後半のパネルディスカッションともに限られた時間の開催となったため、フロアとの意見交換などを十分に行えなかった感がありますが、登壇者の方々の熱弁と学内外からの200名を超える方のご参加により、シンポジウムは盛況のうちに幕を閉じることができました。この場を借りて、ご登壇いただいた両先生と中尾市長、ならびにご列席いただきました方々に、改めまして厚くお礼申し上げます。

みらいフォーラム 2011

■フォーラムを終えて

教授 高田 実 (FD委員会副委員長)

「学生が授業を作る」。そんなことって実際にあり得るのだろうか。どんな風にしたならそれが可能なのだろうか。「学生とともに学ぶ」をメインテーマとした今年のみらいフォーラムが、2011年12月8日(木)、新築の本館I-206教室で開催されました。

第1部では、「学生とともに作る授業」について考えました。講師には、「橋本メソッド」で名高い橋本勝先生(富山大学教育支援センター)をお呼びしました。先生は、岡山大学で長い間この問題を考え、また自ら先頭に立って実践してこられました。その成果をご教示いただき、本学でも実行可能な方法を検討してみようと考えたのです。



橋本 勝 先生

ご講演では、岡山大学の学生FD委員たちがいかに積極的に授業づくりに関わり、自らの声を反映しようとしたのか、「新聞投稿に挑戦する」という学生発案型授業を撮影したDVDを交えつつ、ご講演いただきました。岡山大学では「学生参画型授業改善」の意識が定着しており、それが「学生・教職員教育改善専門委員会」という組織に具現されるとともに、フォーラムをはじめとしたさまざまなイベントにも活かされていることが紹介されました。

何よりも強調されたのは、「授業は楽しくなくてはならない」という意識の大切さでした。「教える」のではなく、「学ぶのを助ける授業」へ、また「いい授業」ではなく、「教員も楽しめる授業」へ変えていくことの重要性が指摘されました。楽しさが主体的な学びを引き出すことが主張されました。その授業を通して、自分の知的成長への期待、新しい何かに出会える期待、楽しい時間を共有できることへの期待、こうした学生の期待にこたえることができるし、教員自身も手ごたえを確信しながら前進することができるという主張されました。「学びの主権者としての学生」という意識が徹底していることが実感できましたし、その効果の大きさに驚きました。

印象的だったのは、講演のなかでご紹介された、楽しそうに手を挙げて、目を輝かせている学生の姿を写した写真でした。自らの授業でも、こんな光景に出会えるように努力したいものです。

この講演を受けて、学生FD委員会主催の第2部、第3部が展開されました(詳細は右記参照)。参加者一同、本学の学生FD委員のイベント組織力の高さに感銘をうけていました。

参加者は50名を超え、このフォーラムも定着してきました。また、今回初めて対外的にオープンにし、他大学からも参加者を交えてより広い視点から議論することができました。今後は、フォーラムで学んだこと、あるいはディスカッションのなかで示された有益な意見を、どのように日常の教育活動に活かすか、その具体的な方法を検討することが大きな課題となっています。

■学生討論を企画して

学生FD委員会代表 経済学科3年 平岡伸元

12月8日に開催されたみらいフォーラムでは、第2部の学生討論、第3部のティーパーティーを私たち学生FD委員会が企画・運営をいたしました。当日は、教員19(含他大学からの参加者2)人、学生18(同2)人、職員10(同2)人の計47人の方に参加していただきました。

学生討論では、「学生は大学に何を求めているのか」というテーマを設定。これは、高い授業料を払っているにも関わらず留年率が高いという市大の問題点に着目し、なぜ大学に来ているのだろうか、大学で何を学ぶのだろうかということを考えるきっかけにしたかったです。当日は、テーマ説明の後、学生・教職員混成グループをつくり、議論を行いました。最初はどのグループも意見があまり出ませんでした。時間が経つごとに議論はヒートアップ。最終的に20分議論の時間を延長し、グループごとに画用紙を使い発表しました。学生は、普段あまり意見を交わすことのない教職員がどのように考えているのか、教職員は、学生がどのようなことを大学に求めているのかを知るよい機会となりました。アンケートからも、「先生や職員の方の思っていることが知れてよかった。このような歩み寄れる場は必要だと思う。(3年生)」「普段あまり聴けない学生の意見を多く聴くことができ、貴重な時間となりました。(職員)」「非常に意識の高い学生さんが集まっていると感じました。ぜひ続けてほしいです。(教員)」とみらいフォーラムだけでなく、継続的にこのような場を開催してほしいとの声を多くいただきました。

第3部では、厚生会館の談話室に移動し、ティーパーティーを開催しました。橋本勝先生や荻野学長と真剣に議論する姿や、他大学の学生とざっくばらんに意見交換する姿が見られました。

みらいフォーラムにおいて、このような学生企画の実施は昨年度より始まり、今年度で2回目です。昨年度は、開始時間になっても学生がなかなか集まらず苦勞しましたが、今年度は宣伝の効果か、多くの学生に来てもらうことができました。しかし、学生主体の議論を行うにはまだまだ人数が足りません。教員より学生の人数が少ないというのも残念な点でした。アンケートからすると参加者は有意義な時間と感じているようなので、一層多くの学生に参加してもらえるよう来年度以降も活動していきたいと思えます。また、みらいフォーラムを含めて年2回だったこのような学生討論の場を数多く設け、多くの学生に大学について考えるきっかけを提供できたらと思えます。

末筆ながら、当日来てくださった皆様、事前アンケートや運営に協力していただいた皆様には心よりお礼申し上げます。



新校舎落成披露式が執り行われました

教授 櫻木晋一(広報委員会委員長)



新校舎である本館Ⅰ棟・Ⅱ棟の落成式が、10月25日(火)午前10時から本館Ⅰ棟玄関前で挙行されました。下関市や大学、同窓会関係者ら約20人が参加して、来賓の方々からの祝辞のあと、吉川宗利副市長、本間俊男理事長、萩野喜弘学長ら5人によるテープカットが行われました。歴史的な重厚感を持ち合わせた現代的建築物である本館は、鉄筋コンクリート5階建てで、2棟が各階でつながっており、延べ床面積は6219.72㎡、建築・設計費13.9億円を投じて作られました。1階は管理・相談ゾーンで、オープンカウンター方式の事務室やキャリアセンター、国際交流センター、健康相談室、音楽室など、学生の利用頻度が高い施設からなっています。2階は鯨・ふく資料室、中規模教室、理事長室、学長室、3階以上に大学院や教員研究室、会議室などが配置されています。外観は唐戸にある旧下関英国領事館をイメージして、「石と赤レンガのコントラスト」「列柱を持つベランダ」が意識されたデザインとなっています。正門を入ってすぐのところに聳え立つこの本館は、大学正門下の交差点からも見上げることができ、堂々たる容姿は市大の存在感をアピールしているかのようです。

新校舎完成前まで事務局や研究室などとして使用していた旧管理棟はすべて取り壊され、かなり広い空きスペースとなりました。3月末までには、ここにインターロッキングブロック舗装が施され、桜やツツジも植えられて、学生が憩える共有スペースや駐車場、駐輪場が整備されます。市大が学生や訪れるの方々にとって集いの場となるよう、将来に向けてのキャンパス設計は続きます。

今年度は下関市立大学が4年制大学に移行してちょうど50年という節目の年であり、この新校舎は市大における教育・研究活動の中核として機能していきます。



本館正面玄関前



キャンパス整備が着々と進行中

●第3回中国語スピーチコンテストを終えて

国際商学科2年 紀 祥龍

11月12日(土)に、第3回中国語スピーチコンテスト(実行委員:自主サークル「中国語しゃべっチャイナ」)を開催しました。

「朗読の部」「暗誦の部」「弁論の部」の3部門を設け、中国語初心者から上級者までが楽しく学習成果を披露し、お互いに交流できる場を提供しています。今年度は本学学生、下関市内の高校生から他大学の学生まで21名が出場し、学内外の方々や取材の方を併せて80名以上が参加する大会になりました。出場者の中には、高校生でありながら、大学生を上回る実力が有る学生もいました。

第3回スピーチコンテストを開催することが出来たのは、出場者のみなさんを始め、多くの方々のご助力のおかげです。私たち「中国語しゃべっチャイナ」は、中国語を通して「中国文化」や「中国と日本の深い関係」などを学ぶことはもちろん、より多くの方々に「中国語」そして「中国」に関心を持っていただくことを目的としてこの大会を開催しています。

来年も、より充実した中国語スピーチコンテストの開催を目指してまいりますので、ぜひ会場まで足をお運びください。



●第7回コリアンスピーチ大会を終えて

経済学科3年 渡邊聡美

今年で第7回を迎えたコリアンスピーチ大会(11月30日開催)も、県内外の学生から一般の方まで幅広く出場していただきました。今大会の出場者は「朗読」「暗誦」「弁論」の3部門あわせて28名、参加人数は聴衆を始め取材の方々も含めて100名以上になりました。

今年も釜山広域市にご後援をいただき、大会で最も難易度の高い「弁論の部」の優勝者には「釜山広域市長賞」と副賞の「釜山旅行」が贈呈されました。

また、大会開催後に回収した「参加者アンケート」では、「昨年よりも大会のレベルが上がった。」というおほめの言葉もいただきました。引き続き質の高い大会開催を目指すと共に、下関市民の方々にも一層親しんでいただける大会を目指していきます。

私たちコリアンスピーチ大会実行委員会は、「下関市立大学コリアンスピーチ大会」に参加者していただいたみなさまにとって、韓国・朝鮮語の知識を修得するための一助となり、日韓交流を一層深めていく機会になることを願って大会を開催しています。

今後とも応援、ご協力のほどよろしく願いいたします。



釜山広域市長賞の表彰を受ける国際商学科4年岡田隆志さん

就職活動報告

文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」について

キャリアセンター長 上野恵美

平成22年12月より、大学生の就業力育成支援事業に採択され2年目となりました。本取組は、「就業力マイスター制」と「共創力教育」を行うことにより、学生の就業力を育成することを目的としています。

これまでの主な取組としては、卒業生へのアンケートと企業へのヒアリング調査を実施し、それを分析することで、社会で必要とされ、本学でも育成していきたい力を「共創力」として定義する取り組みを行なった「共創力定義のための基礎調査」。3年以内に離職する原因の一つとされている「リアリティショック」を出来るだけ軽減できるよう、本学を卒業した社会人と、これから社会へと向かう学生との接点をつくり、働くこととは何か、仕事とは何かを理解させる「市大キャリアスタディ」。1年生の早い段階から自分の将来を見据え、充実した学生生活を計画することを意識する機会である「入学時キャリアデザイン合宿」。事業体から課題を頂き、それに対して企画・提案を行う「共同自主研究(PBL)」。下関は東アジアの玄関口であり、本学では第一外国語に中国語・朝鮮語を選択できることから、中国・韓国で、就業体験をしつつ、中国・韓国のビジネスの現場を生で学ぶことが出来る「国際インターンシップ」などが挙げられます。

この大学広報では、「共同自主研究(PBL)」と「市大キャリアスタディ」に参加した学生の感想をご報告致します。

PBL・共同自主研究を終えて

国際商学科2年 草薙貴弘

国際商学科2年 金光将栄

国際商学科2年 清川良樹

私たちはPBL共同自主研究でコミュニティFMラジオでの若年層のリスナーの獲得という研究をしました。

まずコミュニティFM下関で担当の方からラジオ、とりわけFMラジオの現状について話していただきました。そのラジオの現状を聞き、下関の社会的背景を考え、私たちが色々と意見を出して幾つかの案を出しました。その案を、本学の指導教員やコミュニティFM下関のご担当の方の意見を聞きながら修正をしていきました。そして内容を吟味してパワーポイントにし、中間発表をしました。そのなかで私たちは2つのことが特に勉強になりました。

一つ目は社会人の人と関わっていくなかで、私達の考えが甘いことに気付いたことでした。私達が一番良いと考えた案を出した時に、今回の課題と一致していないと言われました。話し合いをしている時にはそのような意見は出ず、指摘されるまで気づきませんでした。



二つ目は、研究の仕方の基礎を学べたことです。最初は手探りで進めていましたが、先生から一つずつ教えてもらいながら進めることが出来ました。このPBL共同自主研究で社会人になるための基礎を学べたと思います。

PBL・共同自主研究を終えて

国際商学科3年 末富寛和

国際商学科3年 末石公平

国際商学科3年 壽山恵理香

今回私たちは、コミュニティFMにおける携帯電話の活用方法というテーマで研究を行いました。携帯電話をどのように利用すれば多くの人にコミュニティFMを聴取してもらえるか考え、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の活用を提案しました。

この研究内容をプレゼンテーションするにあたり、私たちのグループは研究内容を簡潔に表現すること、発表の中に笑いを入れること、聞く側の目線に立つことを意識しました。

簡潔に発表するために、1ページの文字数を50文字に抑えて要点だけ伝えるようにパワーポイントを作成しました。結果、分かりやすいように説明できました。しかし、伝えるポイントを定めていなかったために、企画の一番伝えたいポイントを伝えられませんでした。

以上の点を改善し、より聞く側の視点に立ったプレゼンテーションを考えていきたいと思っています。



市大キャリアスタディに参加して

経済学科3年 中野友紀

私が、市大キャリアスタディに参加したのは、なかなか話す機会のない社会人とお話ししてみたいと思ったからです。また、「下関市立大学」という共通の話題があるので、何の共通点もない社会人といきなり話すよりも話しやすいのではないかと思います。



1部では先輩方の仕事内容や就職活動の経験談、また人事としてのお話、2部ではご飯を食べながら、もう少し踏み込んで実際の仕事での苦労や、社会に出てからのお話を聞かせていただきました。その中で、最も印象に残っているのは、「仕事はきつくて当たり前」という言葉です。きつさの中でいかに自分のやりがいや楽しみを見つけるかというのが大切だということを教えていただきました。今後、就職活動はさらにきつくなると思います。その中で、一生懸命に楽しみを見つけながら乗り切っていきたいと思いました。

今年の就職状況について ——— 教授 大内俊二 (キャリア委員会委員長)



2012年春卒業の就職状況は、求人倍率1.23倍(前年1.28倍よりわずかに低下)から判断すると、昨年度と同程度との予想もありました。しかし東日本大震災の影響を受け、選考スケジュールが変更になり就職活動が長期化されたり、ここ数年の潮流となっている「量より質」という企業側の採用姿勢によって2極化(一人でいくつもの内定を取る学生と、なかなか内定が取れない学生)現象が起こっており、内定率が思うように伸びていないように思われます。このような状況の中、本学学生は大変健闘しております。

平成23年度就職状況 (就職内定企業一覧 平成23年12月31日現在)

Table listing job offers by industry sector: 金融 (Finance), 製造 (Manufacturing), サービス・その他 (Services/Other), 建設・不動産 (Construction/Real Estate), 公務員 (Public Servants), 運輸・郵便業 (Transportation/Postal). Each sector contains multiple rows of company names and their respective locations.

退任あいさつ 赴任当時をふりかえって……………吉津直樹



1981年に本学に赴任した時は教員数は27人と実に小規模であった。赴任する前は母校の名古屋大学で3年間助手をしていたが、いずれ“熱愛する”郷里・萩に帰りたいと思っていたこと、大きい大学より小さい大学の方がいいと常々考えていたところに下関市立大学の公募があり早速応募した。6人の応募があったが幸い採用してもらった。後の5人の応募者はその後、そうそうたる大学の教員になっており、よくぞ割り込んだものだと感心している。後で面接の教員の一人から、「君の履歴書の趣味の欄に囲碁と書いてあったからとったんだ」と言われた。冗談半分だとは思いますが少しは趣味がプラスになったのだらうか。その先生とはその後ずっとライバルとして囲碁の勝負を続けたものである。思えば名古屋大学の助手に採用されるときも「君は学生とよく飲んだりして面倒見がいいからそれを評価したんだ」と言われた。それまで飲むことには精をだしていたがろくに論文も書いていなかったのがこれは事実だろう。人生、何が幸いするかわからないとつくづく思う。

当時は教員控え室には囲碁、将棋盤が複数おいてあり、昼休みや夕方以降になると煙をふかしながら何人もが勝負に興じていた。当時の学長も時々盤の前にいたものである。囲碁、将棋はともかく控え室は話題に満ち溢れておりいろいろと議論を交わしたものである。したがって教員控え室が情報交換の場になっており教員同士が何を考えているか大体わかっていた。今では考えられないことである。時代も変わったものである。

思い出すことども……………雲島悦郎



本年3月31日付けをもちまして定年退職することになりました。1974年4月に、大学院を出て直ぐ赴任して以来38年の長きに亘り勤めさせて頂きました。

あの頃、助手採用は珍しくなく、私も最初の1年間は助手を務めました。教員数は25人程度で、ほぼ3分の1が30歳前後の若手でした(私を含めて、このうちの半数が最後まで本学に留まりました)。当時の施設設備はとても貧弱だったので、国立大学並みの授業料を払わされる学生が可哀想だと思いましたが、学生はそんなことを気に掛ける様子もなく、勉学意欲は旺盛でクラブ活動も活発でした。

その頃、英語は唯一の第一外国語で、しかも必修でした。3年次まで配当されており、専任の英語教員は入学してきた学生を3年間で全員教えましたので、今よりも存在感があったように思います。

1978年、早川先生(現・同志社大学教授)と私が下関市立大学学会の幹事の時、学会費の値上げと一緒に学生論集の発行を提案し承認されました。そして、翌年の3月に何とか創刊号を出すことができましたが、それが現在も続いている『赤馬』です。未永く存続してほしいものです。

1988年度には国外研修で1年間英国のケンブリッジに滞在し、休暇を利用してイギリス国内やヨーロッパ大陸のあちこちを見て回りました。中でも、元同僚二人とベルリンの壁のチャーリー検問所を通過して東ベルリンに入ったことは、翌年にこの壁が崩壊したこともあって、記憶に鮮明に残っています。

50代後半には、病気のために生きるのが精一杯の時期もありましたが、多くの方々に支えられて定年まで勤め上げることができました。長々お世話になり本当に有難うございました。

退職にあたって……………佐々由宇



はじめて教壇に立ったのは、昭和51年の秋でした。59年に本学に移ってきて、28年になります。長いといえば長かったなという感慨はありますが、本学での定年を機に己の人生にピリオドを打つ気はありません。まだやっておきたいこと、やりのこしていることはいっぱいあります。これから、じっくり取り組むつもりです。

私の学生時代に比べると社会も大学も学生もずいぶん変わったなあ、と思います。古き良き時代を懐かしむのは歳のせいでしょう。けれども、勉強する上で昔のほうが良かったと思うこともいっぱいあります。限られた紙面でそのすべてを書くことはできませんが、たとえばコピー機のなかった時代、PCもなくてコピペのレポートなんてありえなかった時代、そのころのほうが勉強がよほど身についたように思います。要は使い方なのですが、便利な道具に依存しすぎて考える努力を今の学生は昔に比べてあまりしなくなっているのでは、とこのごろよく感じます。

そういうふうを感じつつ本学を去る年寄りを見返して乗り越えて行ってくれる学生がたくさん出てきてくれることを願っています。そして、最後にみなさんありがとうございました。これからの社会を、大学を、支え創っていかれることを、願っています。

●JASH!!!主催クリスマスパーティー

国際商学科2年 佐野純一

2011年12月20日(火)夜、本学厚生会館談話室に於いて、自主サークルJASH!!!主催のクリスマスパーティーを開催しました。今年で4回目となりましたが、本学学生、教職員に加え、他大学や一般の方も含めた総勢約70名の方々に集まっていただき、皆で楽しくクリスマスを祝いました。その中には留学生も多数含まれており、非常に国際色豊かなパーティーとなりました。シャンメリーでの乾杯に始まり、プレゼント交換、箱の中身当てゲームやビンゴ大会など、非常に盛り上がりました。また、SINGSONGサークル、弦楽愛好会、チューインガム(アカペラサークル)の3組によるライブも行われ、パーティーを彩りました。



このパーティーを通じて多くの方々と交流を持てたことはとても嬉しく思います。加えて、前回同様今回も1年生メンバーが中心となって企画、運営を行い、大成功を取られたことは非常に頼もしく感じました。

今回のクリスマスパーティーを開催するに当たりまして、本学国際交流センターの皆様を中心に沢山の方々のご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

●「餃子パーティ～食・見・交・群～」を開催して

経済学科1年 孫 宗臣

1月7日(土)、SCU国際交流会館1階に於いて、自主サークル「中国語しゃべっチャイナ」主催の餃子パーティーを開催しました。今年で4回目を迎えた餃子パーティーの主旨は「楽しく温かい雰囲気の中で中国の文化を知ってもらう」です。

今回は、地域の方々、本学学生、教職員約100人が参加しました。中国人留学生の指導のもと、参加者みんなで餃子の皮に具材を包み、本場の水餃子を作りました。また、会館の大家さん差し入れのサツマイモもみんなでおいしくいただきました。

その他に旧正月の紹介、琵琶演奏、日本人と韓国人による中国の

歌披露、歌による中国語講座があり、参加者みんなで歌って踊って大変盛り上がり、「次回の開催を楽しみにしています」とのお声をたくさんいただきました。

「餃子パーティ～食・見・交・群～」は、サークルメンバーみんなで頑張って企画しました。私たちの活動に協力してくださった皆様に深くお礼申し上げます。



次回の餃子パーティは、今年12月に開催の予定です。日中友好の絆を強めるためにも、皆さん是非ご参加ください。

コミュニティ研究会報告

コミュニティ研究会の成功と可能性について

—学びと知の共有の力

准教授 吉弘憲介

去る2011年11月30日(水)16時30分から、下関市立大学の学生・教員有志により第5回「コミュニティ研究会」が開催された。運営側の予想をはるかに超え、学生を中心に60名近い参加者が集まり、当初準備した会場から150名収容の教室に急遽変更されるといふ盛況ぶりであった。

この研究会は、11月21日に行われた本学シンポジウムに招かれた神野直彦氏と金子勝氏の著作を読み理解を深める目的で立ち上げられたものである。しかし、地域活性化など、社会科学が対象とする課題について検討することで、学生と教員、一般参加者の間で活発な議論が生まれていった。この成果を引き継ぐ形で、シンポジウム終了後も研究会を実施する運びとなった。その際、テーマとして選ばれたのは「TPP問題」である。政治的なポジショントークが多く、巷間をにぎわせる社会的課題を多様な立場と歴史的、理論的視点から冷静に議論することで、学生と教員、一般参加者との間で再度課題の共有を行うことが、今回開催された研究会の目的であった。



政治的に様々な立場があり、それによって評価が大きく異なるTPP問題を、より正確に理解するためには専門家による冷静な分析が必要となる。このため、本学で貿易論を担当される山川俊和准教授に問題の整理と分析を依頼したところ、これを快く引き受けていただいた。また、この整理に対して、別の専門家の立場からはどのような批判的視座がありうるかについて、経済政策論の専門家である中川真太郎准教授にコメンテーターの役をお願いし、快諾いただいた。両者の議論は大きい盛り上がり、特に日本の貿易政策論として自由貿易を進めていく上でいかなるルールメイキングを行うべきかについて議論が戦わされた。

これに対し、学生からも、アメリカ主導の枠組みに対する疑問や、一方で日本主導の可能性が薄い中で現実的な対応が必要でないか、日本の既存の社会保障制度への影響への懸念など、種々の疑問が提出され活発に意見が交換された。このように学生にとっても高い興味が示され、活発な議論も相まって研究会は終始、非常に熱を帯びた学びの場となったのである。

学生に対して行ったアンケートの結果からは、今回の研究会が大変に興味深いものであったとの声が多数寄せられた。特に、学生間での議論がより盛り上がることを期待する声も多く、社会問題への高い関心と同時に大学という場における「学び」への高い関心が寄せられ

た。議論を引き受けていただいた先生方、参加していただいた教員からも研究会の成功に対し肯定的な意見と、学生の学習意欲の高さへの期待と驚きが寄せられた。

来年度は、ゼミでの学習活動の相互発表会や学生主体による報告会の企画等、新たにこの学びの場を多様化していく予定である。継続した活動に育てるためにも、多くの学内関係者からご協力を賜れば幸いである。

共同自主研究発表会

2011年度「共同自主研究発表会」報告

准教授 杉浦勝章

2011年12月22日(木)16時30分より、B講義棟211教室において、共同自主研究発表会が開催された。

共同自主研究は、学生が自主的にテーマを設定し、指導教官の指導を仰ぎながら半年あまりにわたって研究を実施するものであり、自発学習の一環として単位認定されている。この発表会はその中間的な成果報告の場と位置づけられている。

今年度は、7グループ24名の研究成果が発表された。環境、観光、福祉、金融など多岐にわたるテーマであったが、それぞれのグループが深い考察にもとづいて丁寧な報告を実施した。質疑応答の時間では、発表会に参加していた教員だけでなく、学生からも質問や意見が活発に出され、発表会は盛会のうちに終了することとなった。



今後は各グループにてさらに研究を深め、最終的な研究成果がよりいっそう充実したものとなることを期待するとともに、次年度以降も多くの研究が実施され、共同自主研究の取組が発展していくことを祈念している。

生活保護受給者(受給対象者)の就労政策と住宅政策

国際商学科4年 美世健二郎

私は、近年の歳出における社会保障費の増加に関する問題の根底にあるものを知りたいと考え、この共同自主研究に参加しました。

同じ福祉関連について研究を志望している学生が多かったため、3名と合同での研究となりました。複数人での研究は、活動そのもののスケジュール調整が難しく、ただ調査や研究をすればいい、というものではありませんでした。それでも、集まれる時間を有効活用し、班員で意見を積極的に出し合うことで、内容をより多角的に深く考えることができました。



また、中間報告をした際、山川先生、難波先生から、アドバイスや厳しい指摘を受けたことで、自分たちだけでは見えない視点に立つことが出来ました。そのお陰もあって、発表報告会では、福祉政策におけるセーフティネットの溝が問題であるという点を、わかりやすく説明出来たと思います。

この研究で、私は福祉面の「知識」がただただだけでなく、少ない時間をいかに効率的に使うかという「知恵」も手に入れることが出来ました。この経験を社会に出てからも活かし、下関市立大学の名に恥じぬ活躍をしていきます。

留学生送別会を開催して

国際交流会ともだち部長 国際商学科2年 和泉憲明

1月20日(金)、今年度卒業予定の学部留学生や大学院留学生、交換留学期間を終えて帰国する特別聴講学生や外国人留学生科目等履修生、また任期を終え帰国される北京大学と青島大学から招聘した特任教員の皆さまのための送別会を開催しました。留学生のクラスメートや本学教職員など、学内外から75名の参加がありました。

送別会は、荻野学長の挨拶ではじまり、卒業や帰国をする留学生と教員の皆さまから一言ずつお別れの挨拶があり、国際交流会ともだち企画のビンゴゲームで大いに盛り上がり、別れを惜しみながらも賑やかで楽しい送別会となりました。

帰国される留学生の皆さん、帰国後も下関市立大学で過ごした日々を忘れないでください。私達は、皆さんとまたお会いできる日を楽しみにしています。



■秋季大会成績(主な大会の一部を掲載)

大会名	種目	順位	選手	所属
山口県体育大会 少林寺拳法競技	平成23年度 優勝	女子段外の部	池元愛美・小野内梓	山口県
山口県体育大会 少林寺拳法競技	平成23年度 3位	女子段外の部	田添みどり・山崎葉未	山口県
少林寺拳法 中四国学生新人大会	第1回 優勝	女子茶帯の部	高吉亜衣・村上摩衣	山口県
少林寺拳法 中四国学生新人大会	第1回 2位	女子茶帯の部	池元愛美・小野内梓	山口県
少林寺拳法 中四国学生新人大会	第1回 2位	男子茶帯の部	藤原康平・澤野雅太	中四国地方
少林寺拳法 中四国学生新人大会	第1回 優勝	女子初段の部	高島佐幸・瀧詩織	中四国地方
少林寺拳法 中四国学生新人大会	第1回 3位	女子初段の部	田飯兼美・藤田香子	山口県
少林寺拳法 中四国学生新人大会	第1回 3位	男子初段の部	平尾聡志・磯田治博	山口県
少林寺拳法 中四国学生新人大会	第1回 優勝	団体演武段外の部		中四国地方
少林寺拳法 中四国学生新人大会	第1回 2位	団体演武初段以上の部		中四国地方
少林寺拳法 全日本学生大会	第45回 本選出場	男女初段の部	池藤敬・高島佐幸	全国
少林寺拳法 全日本学生大会	第45回 本選出場	女子級上級の部	高吉亜衣・村上摩衣	全国
女子バレーボール部	山口県大学高等学校バレーボール選手権大会	平成23年度 秋季 0勝		山口県
空手道部	北九州・下関地区体育大会	第58回 秋季 準優勝	男子個人組手 佐々木 由明	北九州・下関地区
	北九州・下関地区体育大会	第58回 秋季 準優勝	男子個人型 堀田 洋史	北九州・下関地区
	北九州・下関地区体育大会	第58回 秋季 4位	男子団体組手	北九州・下関地区
女子バスケットボール部	中国学生バスケットボール大会	平成23年度 秋季 2勝1敗		中国地方
	全日本大学バスケットボール選手権大会(中国地区予選)	2011年 1回戦敗退		中国地方
	北九州・下関地区体育大会	第58回 3位		北九州・下関地区
硬式庭球部	全日本大学ソフトテニス選手権大会(中国地区予選)	優勝	男子3部	中国地方
	中国四国学生テニス新進トーナメント大会		ベスト8 男子シングルス 中溝 宏司	中国地方
	北九州・下関地区体育大会	第58回 秋季 準優勝	男子シングルス 中溝 宏司	北九州・下関地区
バドミントン部	北九州・下関地区体育大会	第58回 秋季 準優勝	男子ダブルス 中溝 宏司・末谷悠平	北九州・下関地区
	北九州・下関地区体育大会	第58回 秋季 ベスト4	女子シングルス 木村 優子	北九州・下関地区
	山口県学生バドミントン大会	秋季 3位	男子複 濱島典・後藤 誠道	山口県
サッカー部	山口県学生バドミントン大会	秋季 準優勝	男子単 濱島典	山口県
	山口県学生バドミントン大会	秋季 3位	女子単 口羽 歩	山口県
	北九州・下関地区体育大会	秋季 優勝	男子団体	北九州・下関地区
男子バレーボール部	北九州・下関地区体育大会	秋季 3位	男子複 濱島典・後藤 誠道	北九州・下関地区
	北九州・下関地区体育大会	秋季 3位	男子単 口羽 歩	北九州・下関地区
	中国大学サッカーリーグ	4位	2部Aブロック	中国地方
ラグビー部	山口県学生サッカーリーグ	4位		山口県
	山口県選手権大会	1回戦敗退		山口県
	総理大臣杯中国地域予選	1回戦敗退		中国地方
紫電流空手道部	紫電流空手道選手権	入賞者なし		全国
男子バレーボール部	山口県リーグ	1勝 Cリーグ		山口県
女子バレーボール部	中国大学バレーボールリーグ	秋季 優勝	2部リーグ	中国地方
	山口県大学高等学校バレーボール大会	秋季 優勝	Aリーグ	山口県

■学生団体新役員紹介

 <p>学生会執行部 会長 弘田 大祐 経済学科 3年 副会長 宮下 亮平 経済学科 3年 会計 前川 順紀 国際商学科 3年</p>	 <p>体育会 会長 平尾 聡志 経済学科 3年 副会長 宮下 亮平 経済学科 3年 会計 兵頭山二郎 経済学科 3年</p>
 <p>文化会 会長 田中 李奈 国際商学科 3年 副会長 古来 卓也 国際商学科 2年 会計 麻生 椋汰 経済学科 3年</p>	 <p>大学祭実行委員会 委員長 筒井 勝也 国際商学科 2年 副委員長 吉永 昌平 経済学科 2年</p>

■2012年度入試結果

2011年11月19日(土)及び12月17日(土)、本学において2012年度推薦入学、帰国子女・社会人・中国引揚者等子女特別選抜、第3年次編入学、外国人留学生選抜を実施しました。

学科	入試	定員	志願者	受験者	合格者	倍率	
経済学科	推薦入学	全国	27	72	71	27	2.6
		地域	A	29	40	30	1.3
	B						
	帰国子女	2	0	0	0	—	
	社会人	2	0	0	0	—	
	中国引揚	若干名	0	0	0	—	
	留学生	若干名	21	19	6	3.2	
編入学	10	39	37	12	3.1		
国際商学科	推薦入学	全国	27	89	88	27	3.3
		地域	A	29	19	19	1.1
	B						
	帰国子女	2	2	2	0	—	
	社会人	2	1	1	0	—	
	中国引揚	若干名	2	2	2	1.0	
	留学生	若干名	66	65	11	5.9	
編入学	10	36	35	11	3.2		
公共マネジメント学科	推薦入学	全国	7	19	19	7	2.7
		地域	B	8	8	5	1.6
	帰国子女	1	0	0	0	—	
	社会人	1	0	0	0	—	
	中国引揚	若干名	0	0	0	—	
	留学生	若干名	17	17	4	4.3	

平成23年11月～平成24年2月の行事記録

- 平成23年
- 11月 5日 市大キャリアスタディ
 - 12日 第3回下関市立大学中国語スピーチコンテスト
 - 17日 第3回共創サロン
 - 19日 推薦入試(地域推薦・全国推薦)
 - 21日 公共マネジメント学科 開設記念シンポジウム
 - 30日 第7回下関市立大学コリアンススピーチ大会
 - 12月 3日 集中講義(～4日)
 - 6日 第4回共創サロン
 - 8日 みらいフォーラム
 - 10日 TOEFL試験
集中講義
 - 17日 特別(中国引揚者等子女)・留学生選抜入試
 - 22日 共同自主研究発表会
 - 23日 集中講義(～26日)
 - 26日 冬季休業(～1月4日)
 - 29日 学内閉鎖(～1月3日)
- 平成24年
- 1月 5日 授業再開
 - 13日 大学入試センター試験準備(全学休講)
 - 14日 大学入試センター試験(～15日)
 - 20日 留学生送別会
 - 27日 特別(中国引揚者等子女)・留学生入試合格発表
 - 28日 鯨資料室ミニパネル展(～10日)
 - 30日 卒論提出日(～31日)
 - 31日 第6回日本にいながら世界を知ろう
 - 2月 2日 秋学期定期試験(～10日)
 - 10日 鯨資料室シンポジウム
 - 11日 TOEFL試験
集中講義(～16日)
 - 18日 「就業力マスターと共創力教育による就業力育成」シンポジウム
 - 25日 一般選抜(前期日程)

地域共創センターから3月の行事

- 平成24年3月 3日(土) 第3回ふく資料室フグシンポジウム
- 平成24年3月 30日(金) 国際共同研究シンポジウム in 釜山